やっとかめ文化祭

歴史まち歩き

29 上街道（稲置街道）と味鋺

【名鉄味鋺駅改札▶名鉄味鋺駅】

名古屋城と犬山城、中山道を結んだ街道で、味鋺の考古を散策する

名古屋城と犬山城、中山道を結ぶ上街道（稲置街道）沿いのまち、味鋺（あじま）。古墳群から、護国院や味鋺の名の由来である味鋺神社、身替わり伝説が伝わる首切り地蔵などを巡ります。

❖ 新地蔵川
庄内川水系の川。春日井市を流れる地蔵川とつながっています。氾濫の多い地蔵川の流路をかえて新地蔵川が作られました。新地蔵川ののびやかな風景と釣り人が遊ぶのんびりしたムードは、この街を印象づけています。

① 二子山古墳

味鋺駅から北に流れる新地蔵川。ここを北に超えると春日井市になり、二子山古墳は春日井市に位置します。味美古墳群として、二子山古墳・春日山古墳・白山があります。二子山古墳という名は全国にみられるため、正式には味美二子山古墳と呼ばれます。

② 味鋺という地名は物部氏ゆかり

この地域は味鋺（あじま）とか味美（あじよし）と呼ばれ、物部氏の祖・可美真手命（うましまじ）の名にちなんでいます。可美真手命は饒速日命（にぎはやひ）の御子。神武の御代、宇麻志麻治命は物部一族を率いて尾張国に居住したと伝えられています。大和朝廷の権力が及ぶにあたって、物部氏族は平地から山手の土岐の方に追われたとされています。味鋺は物部氏ゆかりの里です。

③ 稲置街道（いなぎかいどう）

江戸時代に名古屋城と犬山城を結んだ街道。つまり、尾張藩と筆頭家老成瀬氏の城下町である犬山を結んでいました。徳川義直（初代尾張藩主）が家老の成瀬隼人正（犬山城主）に命じて作らせた名古屋から犬山までの街道で（当時犬山のことを稲木または稲置といったことから「稲置（いなぎ）街道」といわれるようになりました）、政治的にも経済的にも南北幹線道路で中山道、木曽街道、美濃に通じ、当時非常に繁華な街道でした。

④ 首切り地蔵（身替わり地蔵）

文政の銘が残された地蔵菩薩。立派な祠の中に安置されていますが、摩滅がひどく、胴体がやや斜めに2つに分かれています。昔、このあたりの郷士である一ノ曽五左衛門が同家につかえていた女中に過失があったので手打ちにしようとしたところ、この地蔵が身替わりになったと伝えられています。例年8月23日が例祭日で提灯が吊るされ、大勢の参拝客で賑わいます。今も残る石垣は、この辺りが水害地であったことを物語ります。右がお地蔵様、左は味鋺神社から迎えたお札が祀られています。

⑤ 黒塀と石垣の家々

稲置街道を中心に古い家が残っています。特に石垣を積んだ家が多くみられ、水害地、湿地帯であったことがうかがえます。黒塀も多く残されており、独特の雰囲気をかもし出しています。民家の一部やマンションの駐車場の中に祠の地蔵さまが祀られていたりします。お供えのお花は、地域の人々がお世話をしているようです。

⑥ 味鏡山 天永寺 護国院（てんえいじごこくいん）

薬師如来像を本尊に建立した薬師寺が前身。薬師如来をはじめ、古鏡や大般若経600巻などの寺宝が残っています。薬師如来は秘仏とされ、厨子におさまっているので、住職も生きている間は拝むことはできないといわれています。十二神将の制作年代は鎌倉にさかのぼります。仁王像は快慶作と伝えられる立派なもの。尾張万歳発祥の地でもあり、その記念碑が建てられています。本堂の天井には花鳥風月などの絵が描かれています。

⑦ 味鋺神社（あじまじんじゃ）

「味鋺」は味鋺神社に祀られている祭神に由来しています。宇麻志麻治命（うましまじのみこと）と味饒田命（まじにぎたのみこと）、この二柱の神は親子とされ、その後勢力を広げる物部氏の祖であるとされています。白山薮古墳出土の古鏡が神宝。寛治7年（1093年）に競馬の神事が催されたのが始まりで、戦前まで流鏑馬（やぶさめ）が行われていました。境内に稲置街道の石橋（清正橋）が今も保存されています。

⑧ 尾張万歳と味鋺

味鋺村には、安倍有政、徳若兄弟が住んでいて、彼らは長母寺の寺領を廻り万歳を広め、徳若万歳・味鋺万歳と称され、安倍氏は代々味鋺に住みました。正慶元年（1332年）、徳若没後の万歳は味鋺村の人々が受け継ぎ、「板屋十人衆」と呼ばれる万歳師が長母寺の寺領（味鋺、知多の村）周辺を巡礼し「味鋺万歳」として知れ渡ります。江戸期に娯楽的な演目を加え、明治期に入ってから尾張万歳が完成しました。

〈注意事項〉この地図は「歴史まち歩き」の資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴でご参加ください。車などに十分注意し、各自で責任をもって行動してください。住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。●お問い合わせ：（公財）名古屋観光コンベンションビューロー　TEL 052-202-1143（この情報は平成26年11月現在のものです。）